せによりて、きうじゆ二ねむのなつ、みちやうのかたびらをも、おなじきふゆ女房によくわんにこれをたまはらず、是によりてすけちかたかのあそむ、わたくしにわたをたまふ、又所々のてんじやうに、ゐぎだんぎのばむををく、ゑかるを春宮の殿上には、だむぎのばむををかざるなり、

〔蓬萊抄四月〕朔日更衣事　藏人令供夏御座、雖無南殿御出、殿上人必參内、入平座見參、今日裝束、無文冠、夏袍、白縑半臂、下襲、宿老之人、雖平絹無憚著用、白張單衣、例表袴、雖被聽禁色、人今日不著綾羅例也、但宿老藏人頭或不著白重歟、今日以後、宿衣之時、暫不著直衣、幷著冬袍、著同指貫、藏人頭著夏直衣之後、非職改之、御禊之比、多改之歟、

〔夕拜備急至要抄上四月〕一御更衣　御帳幷御几帳帷可相催諸國注文在別　御座覆内藏寮　燈爐綱以下行事所沙汰以相模武藏貢物勤之、　圍碁彈碁局料木召土產國國　御座以下所々疊一向掃部寮沙汰

〔建武年中行事〕四月ついたち、御衣がへなれば、所々御ゑやうぞくあらたむ、御殿御帳のかたびら、おもてすゞしにごふんにて繪をかく、かべしろみなてつす、よるのおとゞもおなじ、とうろのつなおなじ物なれど、あたらしきをかく、たゝみおなじ、ゑとねはらす、御ふくは御なをし、御ぞすずしのあやの御ひとへ、御はりばかま内藏寮より是をたてまつる、女房きぬあはせのきぬども、衣がへのひとへからぎぬ、すゞし、も裳は上ら薄物、小上腸うす色、つねのごとし、

〔後水尾院當時年中行事上四月〕朔日、○中略こよひの御盃より女中ひとつゑり也、うはぎの裕張うらひとつを著する也、

〔内院年中行事〕四月朔日、御祝御盃等如常、今日ゟ更衣也、冬ノ御衣、几帳ナドテツシテ、夏ノスゞシニ取カヘラル、女房皆板物白キ羽二重也著シ、賀茂祭ゟ葵ヲ獻ズ、是ヲ御殿ノ四方ニ掛ル也、調ヤウ、葵ヲ七クサリ桂ノ枝サゲテ、簾ノコマルノ輪ニ指入ナリ、此外指タル事モ不及見、不知也、女中皆葵ヲカツラニ掛ルナリ、